

氷の神殿「雲竜溪谷」

平成28年1月31日(日)



稲荷川は、その源を女峰山・赤薙山に発し、日光東照宮・二荒山神社・輪王寺などの世界遺産の東部を流れ、神橋の約300m東で大谷川に合流する急流河川である(流域面積12.4平方km、流路延長9.8km、平均勾配1/10)。この急峻な山地斜面には薙(なぎ)と呼ばれる深さ100m程の大小側刻溪が谷壁を刻んで両側から流下し、この地形条件のもと豪雨出水に伴う土石流による既往災害は甚大であった。そのため、19

18(大正7)年から国の直轄事業として、現在まで20基を超す堰堤が作られている。

今回の山行はその上流にある、女峰山の南東の標高1,400m地点の雲竜溪谷を訪ねる計画である。毎年寒さの一番厳しい1月下旬から2月上旬に溪谷からしみだした地下水が凍結し溪谷全体が美しい氷壁となることから、2月の定例山行として、1月に実施することとなっ



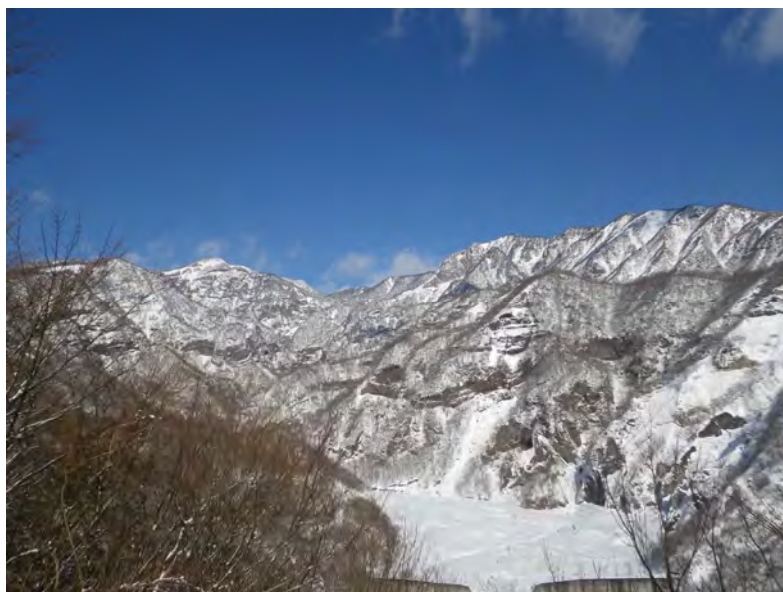
一般車はここまで

るため安全なここを選んだ。7時25分出発。最初はなだらかな登りだが、雪のため慎重に歩みを進める。案の定、乗用車が立ち往生している。そんな姿を横目に我々は杉の植林の中をひたすら登る。8時17分、ゲート到着。一般車はここまで。登山届ボックスがある。ここまでは皆元気で、足慣らしの気分である。それから歩くこと約1時間、稲荷川展

た。前日の雪から一転して、快晴である。実施も危ぶまれたが、定刻通り午前6時野崎を出発。日光市内に入ると、さすがに雪の量が増し、緊張感が高まってくる。7時5分、駐車場所に到着。瀧尾(たきのお)神社の近辺だ。「そういえば男体山の8合目でも同じ名前を見たなあ。」本当は、林道の終点近くまで行きたかったのだが、そこは狭いので、道路に置くようにな



杉林の中を進む



に登る。

10時ちょうどに空沢の工事現場事務所に到着。ここでは、登山者向けに休憩用のベンチやトイレを提供している。冬の間は特に嬉しい配慮である。ここでアイゼンやピッケル、ヘルメットを着用しいよいよ本格的な登山に入る。道は二手に分かれている。ためらわず川沿いの道を進む。何力所か渡渉を行う。ピーチク・パ



望台（日向砂防ダム）に到着。展望はいよいよ開け、赤薙山等霧降高原の尾根筋が目の前に現れる。くたびれてきた時には最高のプレゼント。10分の休憩のあとさら



これから始まる雲竜渓谷に胸踊らせる会員たち

1チク賑やかに渡る。出発前に藤田先生に脅かされたせいか、皆慎重に進む。

10時55分、雲竜渓谷入り口に到着。先程の林道と合流する。急な階段を10mほど下り、川沿いに登ること15分、いよいよ氷の氷柱が迎えてくれた。例年よりは暖冬のため成長が悪いそう

だが、筆者は初めての景観に感動しきりである。皆カメラに夢中ながら、青空も消えまた渓谷の中なので、光も少なくなり寒く感じられるようになってきた。一番奥の雲竜瀑の下に到着。記念写真撮影の後は、氷柱の下に潜ったりで氷の世



登山口のゲートに着いた時は、ヨシヨシ。朝とは大きく違い、ここまで車で来た人や、タクシーを調達している人を羨ましく感じた。長時間アイゼンを付けて登る訓練の必要性を痛感。足の裏にマメができたようです。

15時5分駐車場に無事到達。今日の歩行距離は、16.8km。大変お疲れ様でした。でも、充実した一日でした。

(伊藤 文之 記)



一段上の雲竜瀑

界を堪能。そろそろお腹も空いてきたので、先程の雲竜溪谷入り口の広場にて昼食。思い思いの食事を頂く。

12時35分、下山開始。今度は渡渉を嫌い林道を進むが、上りと同じ位の時間がかかる。



雲竜瀑の前で



※瀧尾神社

女峰山の守り神「田心姫命（たごりひめのみこと）」がご神体

※二荒山神社

男体山の守り神「大己貴命（おおなむちのみこと）」がご神体



- と き 平成28年1月31日(日)
- ところ 日光市 雲竜溪谷
- てんき 晴れのち曇り
- おあし 1,500円
- あ し 海津車、伊藤車

- 参加者 海津（CL）、薄井（SL）、市村（会計）、伊藤（記録）、伊藤（報告書・撮影）、大金、藤田、鐘ヶ江、斎藤

○ コースタイム

野崎＝瀧尾神社P－登山口ゲート－稲荷川展望台－空沢休憩所－雲竜溪谷入口－雲竜瀑－
 06:00 07:05～25 08:17～22 09:20～30 10:00～15 10:55～11:00 11:15～50
 雲竜溪谷入口－空沢休憩所－稲荷川展望台－登山口ゲート－瀧尾神社P＝日光おかき＝野崎
 12:05～35（昼食） 13:15 13:47 14:25 15:05～15 15:25～50 16:40

